

市川伸一先生に聞く

# 「新・教科書」活用術

平成17年度から全面改訂される「新・教科書」。いったい何がどう変わったのか？ 発展的な学習内容とは？「教科書とは皆が持っている最大公約数的なりソース」と説く市川先生に、新しい教科書をうまく活用して、子ども達に学力を身につけさせる方法を語っていただいた。

## 「発展的な学習内容」と「基礎・基本」の教え方

文部科学省が学力低下論争の際に、「指導要領の先のことやってもかまわない」という姿勢を打ち出しましたが、実際のところ先生方は、どういった内容を扱えば良いのかわからないという状況だったと思います。そういった状況の中、今回の新教科書では各社とも「ここは発展」という区切りが明示されているのでわかりやすい。そして、それが押し付けではないスタンスが良いと思います。

「発展的な学習内容」がクローズアップされがちですが、ここで問題になるのは、やはり「基礎・基本」の部分だと思います。そこを指導する際は、先生方は教科書を積極的に使って丁寧に教えることを大切にすべきだと思います。

この10年くらいの間、ややもすると教科書に書いてあるようなことを「自力発見」「協同解決」させようということを強調しすぎて、単元の導入部分から考えさせようとするケースをよく見かけます。しかし、それは単元の最初にやるべきではありません。

一つのクラスの中には、「先取り学習をしている子」もいれば「学力の低い子」もいます。

一番条件が違っている単元の導入の段階でそういう授業をしているのは、「先取り学習をしている子」にとっでは「わかりきった内容の物足りない授業」になり、「学力の低い子」にとってみれば「まったく理解できない難しい授業」になってしまいます。これを私は「新しいタイプのわからない授業」と呼んでいます。こういったケースが増えているのは、ひとえに教師が、子どもひとりひとりがどれだけわかっているかをモニターしようとしていないからだと思います。

## 新しいタイプの「わからない授業」にならないために…

先生方は、自分の授業の中で子ども達に感動して欲しいと願っているはず。だからといって、「予習をするな」とか、「教科書は読まずにきなさい」とか言っているだけじゃありません。

むしろ、予習こそ教科書を活用して欲しいと思います。ざっと読んで流れを見て、どこが読んだだけで

はわからないのかを明確にしてから授業を受ける。

そんなことくらいわかっているだろう：とおっしゃる先生もおられるかもしれませんが、子ども達には予習・復習のモデルを示さないとわかりません。

理想的な形としては、予習段階で「ナマわかり状態」になり、授業で「ホンわかり」になることですが、現実には、授業で「ナマわかり」になり、塾や学習相談で「ホンわかり」になるという状態です。だから、子どもたちは「学校の授業ってわかりにくい」と思ってしまう。教師の理想からは程遠い状態ですし、これは子どもにとっても教師にとっても大変不幸なことです。

## 「教える」「考えさせる」授業

教科書は基礎・基本を押さえるには大切なリソースです。しかし、ただ先生が説明しただけでは、昔の詰り込み授業と同じです。

教えた後に、子ども達がどれだけ理解しているかをモニターする時間をきちんと取って、「教えて考えさせる」授業をするのが基本です。



## 市川 伸一 (いちかわ・しんいち)

1953年東京生まれ。東京大学文学部卒業。  
現在、東京大学大学院教育学研究科教授。文学博士。  
専攻は認知心理学、教育心理学。  
中央教育審議会臨時委員。

「考えさせる」授業の第一段階としては、「友だちにちゃんと説明できるかどうか」です。例えば算数で言えば、教科書に出ている図を使って説明ができるかどうか、それから「公倍数」「比例」のような、基本的な太字の用語が説明できるかどうかなどです。

こういうところを説明させる先生はなかなかいませんが、実は大切なことです。子どもに「そんな、テスト問題に出ないことはやらない」と言われるかもしれませんが、他人に説明がうまくできないということは、良くわかっていないということだからです。

それができて初めて、次の段階「問題解決学習」に入ります。扱う内容としては、教科書の練習問題でもいいのですが、指導要領外つまり「発展的な学習内容」でも良いと思います。

この2つのステップを踏むことが大切です。これなら万が一、第二段階の「問題解決学習」でつまずいたとしても、第一段階の基礎・基本の部分までは押さえられているのですから安心です。導入学習の段階で「問題解決学習」をしようとする先生も多いのですが、これではついでいけない子は全部がくずれてしまう

リスクがあります。

## 教科書を活用して、教科書を超える授業を！

教科書とは、皆が持っている最大公約数的なリソースです。教科書はとにかく活用すべきだと思います。その上で「教科書べったり」ではなく、その先に行こうとした方が良いと思います。

よく「教科書を活用しよう」と言うのと、「教科書べったりでつまらない授業をしている」というイメージをもたれやすく、逆に「教科書は使わない」と言って、プリントばかりという先生もおられます。

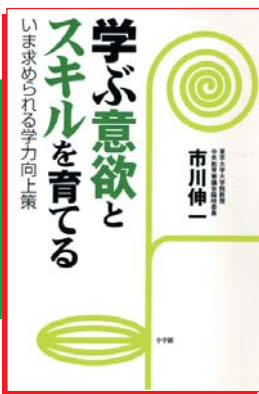
そういう極端なことではなく、せっかくの共通のリソースは活用して欲しいと思います。なにより、文章での解説が載っているというのが最大の武器です。授業でわからなくても読み返したり、「ここがわからない」と振り返ったりすることができるところからです。

教科書べったりといっても、それで終わるわけではないし、教科書を離れるといっても、教科書を使わないというわけではありません。教科書というリソースを活用しつ

つも、是非とも教科書を超える授業をしていただきたいと思います。各教科書に出ている「発展的な学習内容」の項目は、「超える」ためのヒントだと思えますので、それらを参考にし、さらに工夫して授業をしていただきたいと思います。その工夫次第で、より面白い授業になるのです。



## 市川伸一先生の著書



『学ぶ意欲とスキルを育てる  
—いま求められる学力向上策』(小学館)、  
『勉強法が変わる本—心理学からのアドバイス』  
(岩波ジュニア新書) 他多数あり。

# 各教科改訂のポイント

平成十七年度から全国の小学校では、全面的に改訂された新しい教科書が使用される。「確かな学力」の育成が求められているなかで、どのような改訂があったのだろうか。主要教科について概要を報告する。

周知のことだが、平成15年12月に学習指導要領の一部改正があった。

ここでは、「個に応じた指導の一層の充実」を図るため、習熟の程度に応じた指導、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習など、指導方法の工夫が要請され、現在各学校では、少人数指導や課題別指導など、学習指導の工夫改善が意欲的に実践されている。

改訂教科書の特徴は何か、発展的な学習の扱いはどうなのか、習熟の程度に応じた指導への配慮はどうか、といった点について、主要教科について概観する。

## 国語

A社は、国語学習でもっとも大切なこととして、「基礎・基本」「読むこと」「言葉」の3つを編集の方針とする。言葉を大事にし、様々な読

み物と出会う喜びを感じる子どもの

育成、「話す・聞く」「書く」「読む」の基礎的・基本的な力が確実に身につくことをねらいとしている。すぐれた文学作品に触れる機会を多くするため、資料として日本の昔話、狂言などを学年に応じて一作品ずつ掲載している。

B社は、「個に応じた学習」への配慮として、テーマや方法を選べる教材や「選択型てびき」を設定し、少人数指導やコース別指導に対応できる内容の工夫に特徴がある。また、日本語の美しき、豊かさに触れるための教材として、学年段階に応じて昔話、わらべうた、落語、いろはうたなどを取り扱っている。

C社は、発展的な学習として、巻末に補充読み物、教材集などの付録を添付している。各単元ごとに学習への見通しをもたせ、単元末に学習

## 算数卒業旅行

6年間の算数の学習の終わりに、算数のいろいろな世界を旅行してみよう。5つのコースがあります。好きなコースを選びましょう。

国際コース ★10ページ	算数の考え方は世界共通ですが、筆算のしかたなど日本とちがうところもあります。
日本コース ★6ページ	日本の数学は江戸時代に栄えました。江戸時代の人たちはどんな問題を考えていたのでしょうか。
歴史コース ★10ページ	算数どのように生まれてきたのでしょうか。その歴史を訪ねてみましょう。
クイズやパズルコース ★13ページ	クイズやパズルの中には、算数の考えを使ったものがたくさんあります。
分数コース ★9ページ	分数は、昔から数学や科学の発展には、欠かせないものでした。分数の生い立ちを見てみましょう。



I社の6年下巻「算数卒業旅行」

を振り返るための「自己評価」の観点を載せている。

## 社会

D社は、学習内容を重点化し、基礎・基本に厳選している。6年歴史学習では、人物や文化財に重点化した内容となっている。発展的な学習への配慮として、学習指導要領にない内容、学習を深化させる内容、多様な選択事例を扱った内容の三通りの教材を用意し、問題解決的な学習

を発展させるよう配慮している。

E社は、「子どもの側に立つ」教科書を目指し、「学ぶ楽しさ」や「学び方」の習得を図り、自己形成力の創造を意図している。発展的な学習としては、学習指導要領に示されていない内容も取り上げ、自由研究に取り組める内容や活動例で構成する。すべての子どもが一律に学習するだけでなく、個に応じた力をより伸ばす場として設定されている。



## 理科

F社の教科書では、発展的な学習は、読み物資料などで旧学習指導要領から削除された内容も取り上げている。造本の工夫として、こすり出し印刷を活用している。

現在、全国的に三学期制の見直しが行われているが、G社は三学期制、二学期制のどちらにも対応できるように単元構成の工夫が見られる。また、各学年の配当時数が、学習指導要領で示される標準時数より10時間程度少なく設定され、短縮によって生じた予備時数を、発展的な学習や補充的なたしかめなどの習熟・評価に当てるよう配慮している。

## 算数

算数の授業でよく話題になる、学習指導要領を超える「発展的な学習」の扱いはどうなっているか。

H社：児童の興味・関心に応じて選択できる発展・補充教材。  
I社：思考力や創造力を伸ばすための発展問題。

J社：習熟に応じて選択できる内容。

K社：習熟の程度に応じて、6年で帯分数の加減などに挑戦。

L社：補充・発展コースを選択し、学習できる内容。

各教科書が発展的・補充的な問題を掲載し、理解の程度に応じた習熟度別指導にも対応できるように内容となっている。

指導要領では、算数が楽しく充実した学習になるように「算数的活動」を重視しているが、H社では巻末に「切り取り付録」として、児童が興味を持って活動できる教材が用意されている。例えば、二年下巻には、「九九の円ばん」を使ってゲーム感覚で楽しみながら九九の練習ができる教材が工夫されている。

さて、各社それぞれに改訂の趣旨に沿った編集の工夫がみられる中で、I社の6年下巻「算数卒業旅行」が、発展的な学習教材としてよく工夫されている。本単元は、卒業を間近に控えた児童が、6年間の算数学習のまとめとして、設定された5つのコースの中から好きなコースを選択し、能力に応じて学習を進めることができる。習熟の高い児童や新しい問題に挑戦する意欲旺盛な児童は、複数のコースを学習することも可能である。

5つのコースとは、「国際コース」「日本コース」「歴史コース」「クイズ・パズルコース」「分数コース」である。各コースで取り上げられた内容は、ふだんの算数学習では触れる

ことのない新鮮で興味深いものである。なお、指導計画では6時間扱いとなっているが、調べ学習や新たに発見したことなどを発表し合う場をもうけるなど、2時間程度多めに計画してみたらどうだろう。

児童がコースを選んで、自分の力に応じてどんなに進める学習もあるが、卒業前のこの時期に学級の枠を取り払って学年全体で指導に当たり、少人数によるグループ学習を実践してみたい。まず全体指導で各コースの内容を簡単に説明し、児童の興味・関心をもとにコース選択できるようにする。各コースに担当の教師を配し、個別指導に応じる。同じコースを選んだ児童が協力し合って学習を進め、疑問な点や難しい問題については図書館で調べたり、友達どうしで話し合ったりする学習を大切にす。ここでの学習経験は、中学校への発展を考えても意味のあるものとなる。

4月から各教科の教科書も一新し、児童は新しい教科書を手にして新たな気持ちで新年度を迎える。児童ひとりひとりに「確かな学力」を保証する教育は、何といたって授業の充実には尽きる。各教科書の特徴を生かした指導法が、さらに工夫改善されることを期待する。



三上 裕三 (みかみ ゆうぞう)

1941年広島県生まれ。聖徳大学教授。  
東京都小学校教員、東京都教育庁指導主事・人事部管理主事、板橋区教育委員会指導室長、小平市立小平第四小学校長、豊島区立時習小学校長、全国連合小学校長会長を経て、現職。